

平成 21 年度調査研究報告書

CMS を基盤にした情報モラル教育に関する研究

平成 21 年度国立情報学研究所共同企画型研究 採択
～ネット教習所をキーワードとした情報モラル指導のための
基盤システムの構築と指導に関する研究～



埼玉を拓く HPから教育へ
インターネット教習所
<http://morals1.spec.ed.jp/test/htdocs>
彩の国
情報モラル教室
SAITAMA



埼玉県立総合教育センター

目 次

○概要

第1章 はじめに

- 1 研究の概要
- 2 研究の目的
- 3 研究の仮説
- 4 研究体制
- 5 研究実施計画

第2章 学習システムの構築

- 1 先進校の実践的な取組
- 2 学習サイト構築の考え方
- 3 情報モラル学習サイトの構築

第3章 研究協力校の取組

- 1 検証授業の概要
 - ・和光市立第五小学校
 - ・鴻巣市立赤見台第一小学校
 - ・吉見町立南小学校
 - ・春日部市立上沖小学校
 - ・熊谷市立妻沼西中学校
 - ・加須市立昭和中学校
- 2 教育委員会の取組
 - ・和光市教育委員会

第4章 まとめ

- 1 考察－研究の成果と今後の課題
 - (1) 仮説についての検証
 - (2) 研究の成果
 - (3) 課題

参考資料

謝辞

参考文献

研究協力委員一覧

研究課題

CMS を基盤にした情報モラル教育に関する研究

第1章 はじめに

1 研究の概要

ユビキタス社会の実現に向けた我が国のICT国家戦略は、教育の現場にも情報化の波をもたらしている。教育の情報化の進展に伴い、インターネット等の利用が児童・生徒の間にも急速に広がる中で、インターネット上での誹謗中傷やいじめ、犯罪や違法・有害情報などの問題が発生しており、「情報モラル」教育の一層の充実が求められている。

一方、Web上には、数十万を超える数の情報モラルサイトが存在し、教材や資料の他に、指導事例、実践事例など情報モラル学習のための情報を提供している。文部科学省も関係機関と連携し、情報モラルサイトを立ち上げ、広く情報を提供している。

しかし、インターネットによる児童・生徒を巻き込んだトラブルは深刻化を増し、減少するどころか依然として増加傾向にある。親子間の情報に対する意識の格差、それに伴う情報モラルに対する親子の関わり方、情報モラルを指導する教員の意識や指導力の格差など、情報モラル教育には、多くの課題が山積している。今や「情報モラル」は、我が国において喫緊の課題である。

学習指導要領解説総則編では、「情報モラル」とは、「情報社会で適切に活動するための基となる考え方や態度」であるとしている。また、『教育の情報化に関する手引き』^{※1}の第5章「学校における情報モラル教育と家庭・地域との連携」では、「情報モラル教育」とは、「情報化の『影』の部分を理解することがねらいなのではなく、情報社会やネットワークの特性の一側面として影の部分を理解した上で、よりよいコミュニケーションや人と人との関係づくりのために、今後も変化を続けていくと考えられる情報手段をいかに上手に賢く使っていくか、そのための判断力や心構えを身に付けさせる教育であること」とし、その指導にあたっては、「従来の授業の中に情報モラルの視点をもった学習活動を取り込むことが必要」と言及している。

文部科学省は、『学習指導要領』に情報モラル教育の必要性を謳い、各学校で指導の充実を図るよう、明確な位置付けを示し、更なる取り組みの充実を図ろうとしている。

しかし、Web上にある情報モラルサイトは、情報モラル教育の有効な学習教材として機能していない状況がある。

教育の現場においては、情報モラルの全体像が不透明であり、情報モラル教育をどこまで進めればよいのか、具体的に明示されていないこと、また、情報モラルの指

導内容には様々なものがあり、何を教えればよいのか指導する内容を絞り込むことが難しいこと、



CMSイメージ図

※1 学習指導要領のもとで教育の情報化が円滑かつ確実に実施されるよう、教員の指導をはじめ、学校・教育委員会の具体的な取組の参考にしてもらうために、文部科学省が作成した教育の情報化に向けた手引きのこと。

さらに、情報モラル教育をどう指導したらよいのか、教授者である教員の指導力不足から、効果的な指導方法が見つからず、情報モラル指導への不安や戸惑いがある。

特に、Web上に存在する各種情報モラルサイトの有効活用、それに伴うICT機器の利活用、アプリケーションソフトの活用など、目的やねらいに即した授業の組み立てに、苦慮している教員も多い。

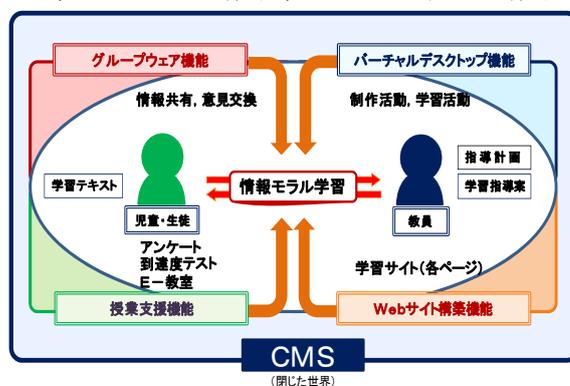
現在の教育現場にあつては、サイトの有効活用、ICT機器の利活用、アプリケーションソフトの活用が、それぞれに独立したものとしてとらえられている傾向が強く、依然として、単発的な形態の授業が行われていることが多い。このことは、情報モラル指導が効果的に進まない原因の一つであると考えられる。

こうした状況を打破するために、擬似体験を通して、情報モラル学習へ取り組めるようにした学習サイトをWeb上に立ち上げている都道府県や市町村の各教育委員会等の取組も見られるが、事例は少ない。

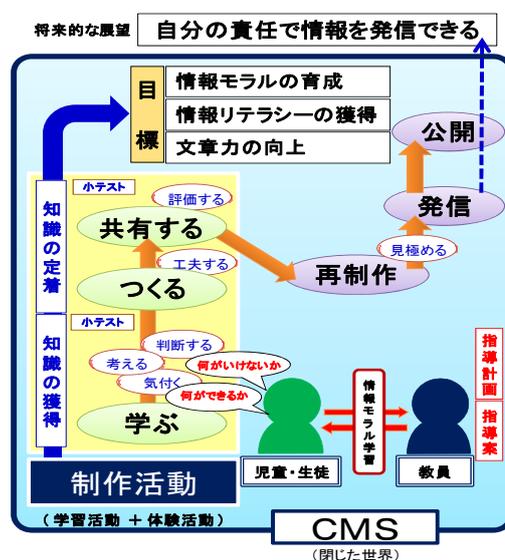
そこで、情報をやり取りする上で必要な機能、例えば、メーリング機能、グループウェア機能、ワープロ機能、画像・動画処理機能などの諸機能をWebサイトの機能としてモジュール^{※2}化できるようにする。そして、一度手続きを踏むだけで、学習目標を達成するのに必要とする関連作業をすべて完了することができるようなシステムを構築することができれば、情報モラル教育における指導の合理化、有効活用が図れるものとする。情報共有基盤システムであるNetCommons^{※3}（ネットコモンズ）には、学校Webサイト構築機能、グループウェア機能、授業支援機能、バーチャルデスクトップ機能が統合されており、有効活用が期待できる。

教育の現場においては、こうした情報共有基盤システムを導入している学校は今のところまだ少ない。多くの学校にあつては、目的に応じた別々のアプリケーションソフトウェアを異なるコンピュータにインストールし、活用しているのみに過ぎない。また、この情報共有基盤システムであるNetCommonsを既に導入している学校にあつても、NetCommonsの持つ4つの機能を統合的に活用している学校は極めて少ない。

そこで、本研究では、NetCommonsが持つこうした4つの機能を統合的に活用することを視野に入れながら、児童・生徒の情報モラル感覚を育成し、その定着を図るために、新たな情報モラル学習指導の方法についてその学習基盤システムの構築を含め、研



NetCommonsによる学習のイメージ



CMSによる情報モラル学習のイメージ

※2 容易に追加や削除が可能なひとまとまりの機能を持った部品のこと。

※3 国立情報学研究所が開発したソフトウェアで、CMSとLMS、グループウェアを統合したコミュニティウェアのこと。

究するものである。

2 研究の目的

喫緊の課題である情報モラル教育を推進するために、CMS^{※4} (Contents Management System) を基盤にした情報モラル指導のための学習サイトを構築するとともに、情報モラル教育を有効かつ効果的に行うための指導方法を、実践を通して検証し、児童・生徒が望ましい情報モラル感覚を身に付けられるようにする。

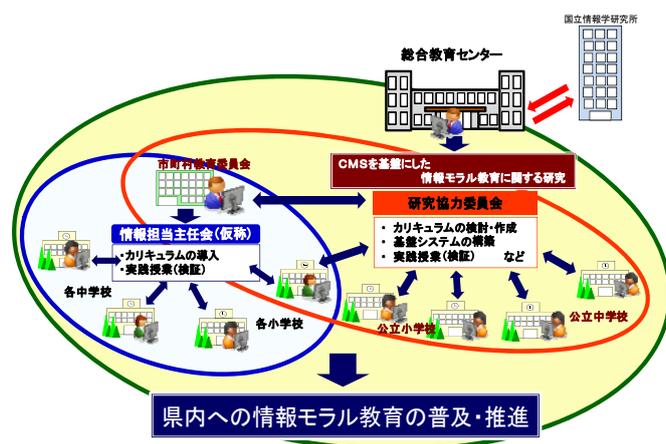
3 研究の仮説

- (1) インターネット上に、自動車教習所のようなワンストップ型で段階的に学習できる情報モラル学習サイトがあれば、児童・生徒の実態や学校の実情、地域の特色に応じた指導が可能になり、情報モラル学習の指導が進めやすくなるのではないかと。
- (2) 児童・生徒が、物事を論理的に考え、判断し、正しく表現できる力、つまり、論理的な思考に基づく言語力、それに裏打ちされた判断力、表現力を身に付けられるようになれば、情報モラル感覚を身に付けることができるようになるのではないかと。

4 研究体制

実際に調査、検証授業を実施する公立小学校4校、中学校2校を研究協力校として委嘱し、国立情報学研究所との連携・協力により、研究を実施した。

また、和光市教育委員会を通して、管内にある小中学校にも協力を要請した。



研究体制模式図

5 研究実施経過

研究協力委員会を6回開催し、進捗状況を確認しながら研究を進めた。うち1回は、CMSを積極的に活用している先進校を訪れ、視察を行い、研究に活かせるようし、研究により構築した基盤システムをもとに、実践授業を実施し、検証を図った。

(1) 研究協力委員会

第1回「研究協力委員委嘱式並びに研究概要の説明」(5月15日)

研究協力委員委嘱式終了後、本研究の趣旨説明をした。研究の概要について具体的に説明し、実践授業に向けた取り組みを開始した。

第2回「CMS基盤システムの操作演習」(5月27日)

仕組みや操作方法について理解してもらうため、CMS基盤システムとしてのNetCommonsについての操作演習を行った。また、研究協力員の役割分担を決定し、次回の研究協力委員会

※4 Web コンテンツを構成するテキストや画像などを一元的に保存・管理し、Webサイトを構築したり、編集したりするソフトウェアのこと。

までに学習カリキュラムを提案できるよう準備を進めた。研究協力委員同士の連絡は、随時 NetCommons を活用し、連絡体制を整え、連絡を密に取り合えるようにした。

第3回「先進校視察」(7月15日)

CMS 基盤システムを積極的に学校教育に活用し、先進的な取組を行っている茨城県筑西市立竹島小学校を訪問し、今後の研究の参考にした。

第4回「実践研究指導計画の検討(修正・完成)」(8月25日)

各自から提出された学習カリキュラムをもとに、内容を見直し、検討して完成させた。12月中旬までに、研究協力委員は実践授業を実施し、研究の検証を行うことにした。

第5回「研究校による授業研究会並びに研究協議会」(12月16日)

授業参観並びに研究協議会を実施し、それぞれの進捗状況を確認するとともに、これまでの取組を振り返り、今後の活動に向けた研究の進め方を検討した。

第6回「研究のまとめと発表」(2月26日)

検証授業実施後の成果と課題、学習カリキュラム実施上の課題、基盤システム、検証授業の結果等について報告し、次年度の取組に向けた協議を実施した。

(2) 検証授業の実施

研究協力委員の各所属校において、学校または学年全体で検証授業を実施した。研究協力教育委員会については、管内の小・中学校においてそれぞれの学校で取組を実施してもらった。研究協力委員並びに研究協力教育委員会ともに、授業を通して、学習システムと指導カリキュラムについての検証を行った。

※ 検証授業に際しては、児童・生徒に実施した事前と事後のアンケートにより、定着度を確認した。

※ 検証授業に要する時間は、指導カリキュラムに基づき、各校で検討した。

第2章 学習システムの構築

1 先進校の実践的取組

茨城県筑西市立竹島小学校は、複数の手による更新作業を可能とするCMSの利点を生かして、教職員、保護者、児童が関わることのできる学校Webサイト「みんなで作る参加型ホームページ^{※5}」を作成し、インターネット上に公開している。この学校Webサイトは、児童が情報発信を行うことを通して、児童の情報活用の実践力を高めることをねらいとしている。

社会の情報化が進展する中で、家庭におけるインターネット利用の普及が急速に進み、誰でも簡単に情報に触れることができるようになり、簡単に情報発信を行うことが可能となった。その流れは小・中学校にも急速な広がりを見せている。



みんなで作る参加型ホームページ

^{※5} <http://www.chikusei.ed.jp/takesho/>

インターネットは、顔の見えない相手と瞬時に繋がることを可能とした。インターネット上のコミュニケーションは、従来の対話型のコミュニケーションとは異なり、場所や時間を選ばないだけでなく、平易なことばを使った短い文章によるコミュニケーションであり、即時性や利便性が高いのが特徴である。しかし、利用者は、そうしたコミュニケーションの持つ危険性や利便性について十分に理解しないまま、技術的な利便性に流されるようにして利用していることが、大きな問題を生じさせていることに着目し、各教科等における学習活動の中に、「情報発信」という学習スタイルを組み入れ、児童が実際に情報を発信する活動を通して、情報を適切に発信できるようにするための取組を展開している。

NetCommons を利用する理由としては、他のCMSに比べ、インストール作業が簡単であること、オープンソースであるため無償で利用できること、プログラムのセキュリティが高く、安全に運用できること、文字の入力と画像の貼付という簡単な操作だけで記事が作成できること、承認機能により、児童が作成した記事をチェックしてから公開できること等の利点によるものである。

2 学習サイト構築の考え方

児童・生徒が情報モラル感覚を身に付けるには、児童・生徒の「情報活用能力」を伸ばす必要がある。情報活用能力は、「情報活用の実践力」、「情報の科学的理解」、「情報社会に参画する態度」の3つの要素で構成されている。これらの要素は、単独で存在するのではなく、相互に関係し合っ存在している。特に、「課題や目的に応じて適切に情報を活用し、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて、情報を発信・伝達できる力」、いわゆる「情報活用の実践力」を高める必要がある。情報活用の実践力が高められれば、児童・生徒に自ずと情報モラル感覚は身に付いていくと考えた。

情報モラルの指導にあつては、指導内容が多様化し指導内容の絞り込みが困難であること、指導内容について一度説明しただけでは情報モラルを態度として身に付けさせることができないこと、指導する教師の指導力が不足していることなどのマイナス要因がある。そのため、ややもすると教師は、インターネットの使い方、情報発信の仕方のみを教えるような学習、情報の「影」の部分に固執し、危険性を誇張するだけの学習、児童・生徒の興味・関心を煽るような学習、情報の影の部分のもつ危険性とその対処法を理解するだけの学習など、児童・生徒に対して一方向的に教示する学習指導に陥りやすい。このような学習では、情報モラル感覚を児童・生徒に身に付けさせるににくい。学習した内容を児童・生徒に態度として身に付けさせるには、各教科等の学習の中で、指導する単元や題材、場面、時期等を意図的に設定するなど児童・生徒が主体的に学習できるよう、考える学習活動を充実させ、繰り返し指導することで学習内容を定着させる。その後、情報を発信するなどの活動を通して、実践的な体験を積み重ね経験値を上げることができれば、児童・生徒に情報モラルを態度として身に付けさせることができると考える。その際、児童・生徒にとって発達段階に応じて学習できる内容となるよう、各教科等の通常の授業で活かせるようにすることが大切である。

情報を発信するためには、受け手の状況を踏まえる必要がある。それには、情報を正しく、わかりやすく伝えることが重要であり、論理的に表現することが求められる。児童・生徒に論理的表現力を身に付けさせるには、伝えたい情報を発信する前に、文字で文章を書かせる必要がある。その際、文の係り受け、文の成分、論理に基づく展開、著作権の遵守や個人情報の保護等、必要に応じ

て教師が適宜指導を繰り返すことが大切である。子どもたちが論理的に文章を作成するには、何が必要なのかを児童・生徒が学習できるようにする必要があると考えた。

一方的に情報を発信したままでは、その情報が相手に正しく伝わったか、わかりやすい情報として受け手に届いたかどうかを把握することができない。情報を発信したままで、情報を受信した相手から情報を受け取ることができなければ、子どもたちの意欲も時間とともに失せてしまいかねない。情報発信を通して体験的に学習を進めるには、発信した情報に対して、必ずフィードバックできることが重要である。コンピュータ室などのLAN^{※6}による閉じた世界での情報の受発信は、インターネットを介さなくてもやりとりすることができるので、安全で安心な学習を展開できる。しかし、そうした学習は、ややもすると緊張感のない取組になり、子どもたちの身に付かない活動となってしまうかねないことから、情報の受発信を伴う活動は、擬似体験ではなく実体験を可能にする活動でなければならない。

しかし、インターネット上には双方向による情報のやり取りを実現できるソフトウェアやWeb サイトが少ないことから、ワンストップで学習指導が完了するCMSを基盤にして、新たな学習サイトを構築すれば、双方向による情報の受発信を実現できる情報モラル学習が可能になると考えた。

情報社会を生きる現代の子どもたちがコミュニケーションに利用するツールの多くは、コンピュータや携帯電話に代表される携帯端末であり、インターネットを介した文字によるコミュニケーションが中心になっている。しかし、子どもたちの現状をみると、家庭や学校などでインターネットの利用に関する適切な指導を受けないまま、彼らの中で、極めて束縛性の強い自分本位のルールを決めて利用しているケースが多い。インターネットによるコミュニケーションに対して、未成熟な子どもたちが作り上げた仲間内でのルールによる判断の甘さが、トラブルを招いたりそれがもとでトラブルに巻き込まれたりするなどのケースが多く発生している。携帯端末の所持者やインターネットの利用者が低年齢化するばかりでなく、インターネット上でのトラブルに関係する被害者、加害者も低年齢化している状況を考えると、子どもたちが最初に出会うネットコミュニティ（ネット社会）で、子どもたちにそのルールをしっかりと学ばせることが重要である。

これは、運転技術を習得し、安全に運転するためのマナーやルールを身に付け、シミュレーターや路上教習を通して、運転技術を高める教習所の教習内容と似ていることから、こうした取組を「インターネット教習所」として位置付けた。このような視点に沿って、情報を発信する活動を通して、情報モラル感覚を児童・生徒に身に付けさせることができる学習 Web サイト「インターネット教習所」を構築することにした。

このサイトにログインすれば、教授者である教師と学習者である児童・生徒は、一連の情報モラル学習を展開することができ、各教科等における情報モラルの学習において、学習基盤として活用できる。このサイトは、通常の授業において情報モラル学習を推進することができるので、教師はモラル指導に割り当てる授業時間の捻出と授業時間数の確保を心配する必要がない。各教科等の学習の中に、「情報を発信する」という学習スタイルを組み入れ、全ての教科等に亘って繰り返し学習することができるようになれば、児童・生徒は情報を適切に発信することができるようになると考えた。

^{※6} local area network の略。主として同一組織内で用いられる情報通信ネットワークのこと。コンピュータ・ネットワークを中心とし、文書・音声・画像などの多様な情報を高速で安価にやりとりできる。

3 情報モラル学習サイトの特色

この学習Web サイト※7のねらいは、「制作活動や表現活動を通じて学習した内容を情報として発信する活動を通して、児童・生徒に情報モラルを育成する」ことであり、次のような特色を持たせた。

(1) デジタルカメラを使っでの写真撮影、キーボードによる文字入力できれば、簡単にブログやWeb ページを作成できる。

(2) 情報を発信する体験活動を通して学習者である児童・生徒が、Web ページ上で情報モラルを段階的に学習することができるような構成になっている。

(3) 閲覧者が、このサイトについて理解できるように、サイトの概要をトップページに示し、具体的な説明を加えている。

- ・コンピュータによる文字入力とデジタルカメラによる画像撮影ができれば、この学習Web サイトを活用できること
- ・学習形態、画像データの活用とその取扱い方
- ・文章の作成の仕方、推敲の必要性
- ・事前事後の変容を捉えるためのアンケートの活用など

(4) 「学習Web サイトの説明」では、このサイトの使い方を説明し、「情報モラル教室（案内）」では、段階的な指導項目（以下、ステージとする）についてその概要を説明している。特に、画像については、アップとルーズの使い分け、撮影角度、画像の大きさ等について説明を加えている。

(5) 認証IDとパスワードを入力しないとそれぞれの学習ステージにログインすることができないようになっている。

こうすることで、世界に開かれている学習Web サイトであっても、「閉じた世界」を実現し、安全に安心して学習することを可能としている。

(6) 学習Web サイト上に、学習者一人ひとりが自分のページを作成することができ、学習者のインターネット上での学びの場を実現することができる。

4 各学習ステージの概要

段階的に設けた学習ステージは、1 から 6 までである。各学習ステージには、学習のポイント、学習の進め方、手順等を示すとともに、実際に学習を進める際の進め方を例示した。

(1) ステージ1 情報モラルとは？

情報モラル指導における基礎的な内容について学習できるように設定した。学習者である児童・生徒だけではなく、教授者である教師にも参考になるようにした。「情報モラルとは何か」、「情報モラル教育とはどういうことなのか」について触れるとともに、情報発信において押さえ



「インターネット教育所」トップページ

※7 <http://morals1.spec.ed.jp/test/htdocs/>

ておくべきポイント「著作権とは何か」、「個人情報とは何か」について、小学生にも理解できるよう、平易なことばでわかりやすい説明を加えた。

(2) ステージ2 ブログをつくろう！

画像の添付と文字入力ができるれば、この学習Web サイトは、誰にでも活用することができる。画像では伝えきれない情報については、文字で補うことができる。例えば、臭いや香り、大きさ、味、触感、動き（動作）、温度などを伝えるには文字に頼る以外にない。情報伝達における文字と画像の双方の関係を理解させるためにも、伝えたい情報を正しく伝えるためには、何が必要かを児童・生徒自身に考えさせる学習プランにした。

どうすれば受信者に対して、情報を正確に伝えることができるか具体的に例示することにより、教授者、学習者ともに理解を進められるような組み立てにした。

また、児童・生徒が、不適切な情報をインターネット上に公開できないようにするために、管理責任者の「承認」を得られなければ、インターネット上に情報を公開できないようにした。

小学校学習指導要領「総合的な学習の時間編」第4章第2節内容についての配慮事項（8）では、「関心が集まりがちなのは情報の収集や発信にかかわる技能的側面であるが、問題の解決や探究活動の過程においては情報の整理がより重視されるべきである。すなわち、入手した情報の重要性や信頼性を吟味したり、比較・分類したりする。さらには、複数のものを関連付けたり組み合わせたりして新しい情報を創り出すような考えるための技法を、実際に課題を解決する過程を通して身に付けさせることが大切である。情報の発信においては、返信が得られるように工夫することが望ましい。

（中略）自分の発信した情報に対する感想やアドバイスが返り、それを基にして修正したり発展させたりするサイクルをうまくつくることで、情報活用の実践力が育つと考えられる。」とある。このことを踏まえて、閲覧者が記事に対して投票することができたりコメントを書き込むことができたりするようにした。

(3) ステージ3 調べてみよう！

学校教育の中では、よく「調べ学習」が行われている。この調べ学習について、教授者である教師が陥りやすい失敗について触れることで、「調べ学習」を効果的に行えるように配慮した。

情報モラル教育とは？

例えば、教師が、「海外の国々の文化について調べよう」というテーマを児童・生徒に提示したとき、子どもたちは、インターネットや書籍等を活用し、与えられたテーマについて調べる。

しかし、子どもたちにとって知識として身に付いていない未知の内容については応えようがないことから、インターネット上のサイトや書籍等書かれている情報を鵜呑みにしてしまう傾向が強い。そして、その情報が本当に正しい情報かどうかを十分に確かめないまま丸写しして、レポートや模造紙にまとめ、発表している姿をみる。これは、教師側に指導領域がある。児童・生徒が学習して得た知識をベースにした上で、調べ学習に取り組めるテーマを設定しなければ、真に思考して取り組む学習活動にはならない。こうした根本的に陥りやすい過ちを指摘し、学習のねらいが果たせるようにした。

(4) ステージ4 メールを交換しよう！

NetCommons によるこの学習Web サイトは、認証IDとパスワードでのログインにより、安全安心な学習を展開することができる。また、ログイン情報により、情報を発信した相手が誰であるかを瞬時に明らかにすることができる。

インターネットは、「匿名性」が高いという認識から、迷惑な情報や誹謗中傷する情報を簡単に作成し、送信できるといった誤った認識をしている子どもたちもいる。しかし、現実的には、ネット社会における匿名性は、決して高くはない。こうしたことを踏まえて、文字中心のコミュニケーションでは、誤解が生じやすいこと、感情や気持ちを伝えるには、必ずしも適したコミュニケーションツールではないこと、ことばを選び、受け取る相手の気持ちを考えて情報を作成し送信しなければ、情報は正しく伝わらないこと等を子どもたちに考えさせる学習が進められるようにしている。

(5) ステージ5 相手の気持ちを考えた情報発信

ステージ2、3が自分で作成した情報をインターネット上の世界に公開する「一方向に開かれた情報発信」であるのに対し、ステージ4は、双方向の情報発信を想定した学習プランである。

ステージ5は、さらに、情報の発信者が情報を受け取る相手、つまり、情報の受信者の気持ちを考えた情報発信へと結び付けられるようにしている。学習題材も、「題材1：こんなメールがきたよ」、「題材2：友人からの相談、君ならどうする？（自作資料）」、「題材3：ガイドブックをつくろう！」という3つの題材を提示することで、発達段階に応じた取組を可能としている。

ブログをつくって、みんなに知らせよう！

情報を発信する体験を通して、情報モラルを身に付けさせる。(2)

自分の思いや考え、ものごとの状態や様子などを相手に情報を受け取る側の人に、正しく、わかりやすく伝えるには、必要な情報を集めなければなりません。そのための情報は、具体的である必要があります。

1. 例：わかちあいや復習する際には、情報を集めていただけずはなりません。情報を発信してあることで、情報発信には、何が必要なのかわかるようになります。

子どもたちが、書くことに対して、方向性や目的意識を持たないまま、漫然と、あるいは簡陋にただ書くだけでは、意味を成しません。

方向性や目的意識を持たせ、よりよく考えながら、あるいは、考えてから書く。そうすることで、子どもたちは論理的なものの見方、考え方を学び、論理が、表現するすべからずようになります。

ブログをつくらう！

【指導の手順】

- 1 3～4人のグループをつくらせます。
- 2 共通のテーマを考えます。テーマは、子どもたちが考えて取り組めるものになります。
「自分の学校のいいところを伝えよう」
「学校で楽しんでいる人」
「私のまわりの人が『なん？』」
「そのまわりを伝えよう」
「学校の中にある『ありがた』をさがそう」などです。

【注意】

「一番得意のあるもの」、「今調べたいこと」のようなテーマはふさわしくありません。

3 条件を付けます。

条件1: 3～4人で行ける
条件2: 人数を1人増やせる
条件3: 伝えたい内容は、3つ以上の文で書く
(※ 文字数は、200字程度にします)

4 デジタルカメラを持って、取材に行かせます。
* 写真を撮ります。撮影した写真は、所定の場所に保管します。
- 伝えたいことをおぼせます。

5 作文をします。最初は、3つの文で「伝えたい内容」を書きます。慣れてきたら、3つの文より指定を解除します。慣れてくると次の数も次順に増やしていきます。

6 先生に添削指導してもらいます。

【注意】

はじめは、指定した用紙に鉛筆で下書きさせます。
何回か練習した後にコンピュータに入力させます。

7 備えに「見出し」を付けます。受け手が、「見たい、読みたい」と思うようにするためには、どんな見出しにすればいいのか、グループ毎にアイデアを出させます。

8 コンピュータに記事を入力させます。その後で、画像を追加させます。

9 記事の入力が終了したら、必ず先生がチェックしてから印刷しましょう。
(「承認機能」を使うことをお勧めします)

【注意】

画像がどこに保管されているか、子どもたちに保管場所を事前に知らせておきましょう。

■例(2) 2009/06/30 ■ コンピュータの授業 by acco



大学の先生に来て、授業を受けました。
楽しかったです。
また、大学の先生の授業が良かったです。
このブログも、3つの条件をクリアしています。
でも、一つだけかな？
聞いてみたいことありますか？
何の質問なのかな？
聞いてみたいことかな？
どうして大学の先生の授業を受けたのかな？
授業を受けて、どんなことが楽しかったのかな？

一番伝えたいことはなんだろう？
伝えたいことを「正しく、確実」に伝えるためには、どんなものが必要になるんだらう？
写真で伝えることよさってなんだろう？
写真で伝えられない、中々ってなんだろう？
写真で伝えられない、ものを伝えるには、どうすればいいだろう？
伝えたいことば伝えようとするとき、一番得意な言葉を使えばいいよってなんだろう？

家庭・地域の協力を学習活動に活かそう！

応援者によるコメントの投稿

自分が書いたブログに、励みや感謝のこぼれコメントが書かれていると、うれしいですね！
「書いてくれた人がいる、コメントしてくれる人がいる」と思ったら、嬉しそうですよね！
応援してくれる人がいると嬉しいのは、大人も子どもも同じです！

応援者からのコメント(80)

コメント1	2009/06/30 17:50:31	編集 削除
-------	---------------------	---------

大学の先生の授業を受けられてよかったですね。
約をやっていっているのって、すごい
お父さんと協力して、授業も楽しそうですね！

実際に、下のように入社での投稿を利用して、ブログをつくらう。
コメントをつくる機能があるので、発信した情報に対する返信を受けることができます。

ブログをつくらう！

(7) 指導上の留意点

コンピュータでの入力作業は、授業時間及び児童の発達段階を考慮し、200字程度が妥当である。高学年であれば20分程度で入力を完了させることができる文字数である。200字であれば、書くことが苦手な児童でも、教師の支援等があれば書くことが可能な文字数である。

また、書くことが得意な児童は、文字数が制限されることで無駄なことばを削り、分かりやすく書くためにことばを十分に吟味するようになる。

情報発信する文章は、必ず事前にワークシートやノートに下書きをさせる。インターネットの向こうにいる相手（情報を受け取る側にいる第三者）に配慮して、分かりやすい情報を発信するには、どんなことばを使ってどのように表現すればよいかを十分に考えさせる必要がある。

児童が助け合いながら学習を進めることができるよう、コンピュータへの入力作業は、2～3人のグループで行うようにする。その際、コンピュータの扱いが得意な児童と苦手な児童を混同させたグループ編成にする。

著作権、肖像権、個人情報の保護等については、日常的な指導に加え、ワークシート等への下書きの段階でも繰り返し指導する。

あくまでも、CMSが使える環境にあることが大前提になるが、CMSの特性を踏まえた上で、学習に活かせるよう、情報を発信する体験を通して、児童・生徒に情報モラルを身に付けさせる。

第3章 研究協力校の取組

研究協力校並びに研究協力教育委員会の取組について、その概要を示す。

小学校社会科における情報モラル教育への取り組み

和光市立第五小学校

教諭：秋元 和美

NetCommonsを活用して、小学校社会科で学習した内容を情報発信する体験活動を通して、他校の児童との交流学习を進める中で、児童に情報モラル感覚と論理的な表現力の育成を目指した実践事例

概要

●授業計画

教科等：社会科(15時間扱い)

対象：小学校 3年

単元名：はたらく人びととわたしたちの暮らし
—農家のしごと—

●情報社会における正しい判断や望ましい態度の育成

農家の仕事について学習を進める際、市内の南部に位置する第五小学校の学区には、農業に従事する農家が少ない。そのため、どうしても教師が望むような学習効果を得ることが期待できないと判断した結果、農業従事者の多い市内の南部に位置する新倉小学校と、互いの地域の農家の人々の仕事について比較することで、児童の理解を深めることができる。そこで、情報発信による体験活動を通じた交流学习を行うことで、児童に自分たちの住んでいる地域や「農家の仕事」について理解を深めさせるとともに、情報を発信する過程で、情報モラルの必要性、論理的に表現することの大切さについて理解させる授業を実践した。



取組

●交流学习を通じて、情報モラル教育の推進

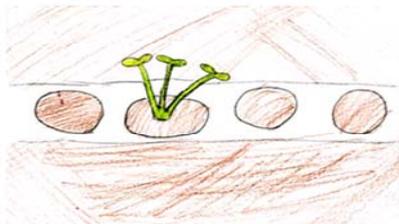
社会科の単元学習の後、情報伝達のために、児童が一番伝えたいことは何かを見付けさせるために、「見学新聞づくり」を行った。限られたスペースの中に、自分のことばを使って、わかりやすくまとめることや、伝えるために必要な写真や絵を選択することについて指導した。

児童に伝えたい内容を整理させ、下書きをさせ、推敲した後、NetCommonsを使って情報を公開した。

交流学习をすすめている市内の別の小学校に通う3年生の児童から、インターネット上に公開した記事に対するコメントをもらう。その後で、相手校の児童に記入してもらったコメントに対する自分の考えをプリントに下書きしてから、NetCommonsの汎用データベースを使って、感想や返事を記入する。

成果

Net Commonsは、児童のリアルなネット体験を可能にするので、普段は相手に伝えるという表現活動に意欲を示さない児童でも、関心をもって活動することができる。その際、児童は、必要な情報を自然に選び、必要なことばを使うことができた。文字数を制限することで、児童は、不要なことばを使わないように心がけていた。このような経験を積み、自然と情報モラルを身に付けることはとても大切である。そのためには、Net Commonsの持つ機能は、とても有効である。

題名	野さいホームページ
調べたこと	多くたちが行った農家の中で、野菜のしゅうかくについて説明します。玉ねぎです。玉ねぎはやく15日でしゅうかくできるようになります。大根は、やく70日でしゅうかくできるようになります。にんじんは、やく80日でしゅうかくできるようになります。白菜は、やく80日でしゅうかくできるようになります。芋、しゅうかくできる作物は、こまつなで、夏にと20日でしゅうかくできるようになります。よとれる季節は、7月と11月がよくしゅうかくできます。
書いた人	葉 高
	
	
コメント	
N3年	2009/12/11 13:51:09 編集 削除 何年前からどうやって畑を作ったのでしょうか？
N3年	2009/12/11 13:58:40 編集 削除 北の方の農家は、15種類の野菜があります。 ほうれん草・キュウリ・トマト・ナス・コマツナ・大根・ニンジン・ジャイモ・ミズナ・ブロッコリー・里いも・玉ねぎ・長ねぎ・ニラ・キャベツです。
書いた人	にんじん君
感想	私は、北のほうにも入はんばいぎがまったくないのはびっくりしました。使った事のないこともびっくりしました。私は、見えない人に、この家の事を教えるのは、はじめてで、楽しかったです。コメントを読んで私が知らない、この家の事がわかりました。

小学校総合的な学習の時間における情報モラル教育への取り組み

鴻巣市立赤見台第一小学校

教諭：清水 励

NetCommonsを活用して、総合的な学習の時間での取組の中で同級生や保護者を対象に情報を発信する体験活動を通して、児童に情報モラル感覚と論理的な表現力の育成を目指した実践事例

概要

●授業計画

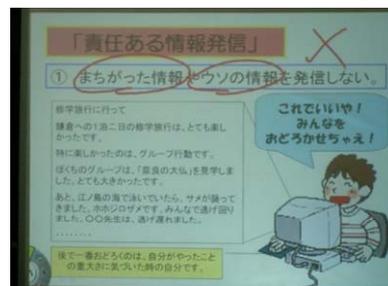
教科等：総合的な学習の時間(7時間扱い)

対象：小学校 6年

単元名：思い出アルバムを作ろう

●「思い出アルバムづくり」を通して相手を思いやる心の育成

児童が家庭から持ってきた幼かった頃の自分の写真をもとに、NetCommonsを活用し、幼いときの思い出や自分の様子などの説明を載せた「思い出アルバム」を作成し、インターネット上にアップした。友だち同士でお互いのアルバムを見合っ
てコメントを書き込み、保護者からも児童へのコメントを書いてもらい、友だち同士に「互いの成長とそれを温かく見守る家族の人々の思いを知ることによって、家族への感謝の気持ちと友だちへの思いやりの気持ちを深めさせる授業を実践した。



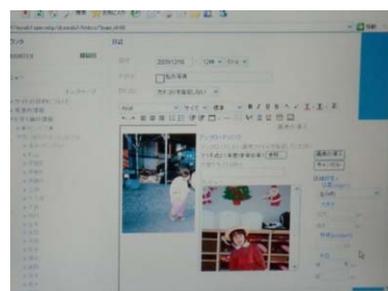
取組

●個人情報の保護、肖像権など情報発信のルール・マナーについての学習

体験的に学ぶだけでは、非効率的で育成が不十分と思われる情報モラル教育の内容に関しては、一斉学習の形態で基本となる情報モラルについて学習を行った。

写真の説明文を下書きさせることで、文のわかりやすさや表現方法の適切さについて考えさせながら、アルバム作りを実施した。文の正確さやわかりやすさ、表現の適切さについて再確認させ、教師の「承認」をもとに情報を公開した。

- (1) 学習計画を知る、個人情報の保護、肖像権、著作権について
- (2) 写真についての説明の作成と入力、情報発信のルールについて
- (3) 互いのアルバムを見合っ
てコメントの書き込み
- (4) 保護者からのコメントを読み、コメントへのお礼の入力
- (5) 掲示板でのルールとマナー、チェックテスト、単元のまとめ
今後の活動について



成果

NetCommonsを活用することにより、体験的に情報モラル学習を進め、メディアを通しての心と心のコミュニケーションという、情報モラル感覚を育成する上で最も重要な体験ができた。児童が体験的な学習を進めつつ、情報モラルに関することを考えながら学ぶことは重要である。情報の発信者として情報モラルを学ばせる環境は、大きな制限と危険が伴う難しいものとなる。そのような実情の中、NetCommonsは、「実際に安心なインターネット環境」を作り上げてくれる。特に、情報モラル学習において「実際のインターネットに情報を発信している」という環境は、児童にとって新鮮さと緊張感のあるとても効果的な学習環境である。

小学校社会、総合的な学習の時間における情報モラル教育への取り組み

吉見町立南小学校

教諭：齊藤 浩正

NetCommonsを活用して、小学校社会科で学習した内容を踏まえ、総合的な学習の時間を使って同級生と保護者を対象にしたテーマに基づく情報を発信する体験活動を通して、児童に情報モラル感覚と論理的な表現力の育成を目指した実践事例

概要

●授業計画

教科等：社会科、総合的な学習の時間(10時間扱い)

対象：小学校 5年

単元名：私たちの生活と情報(社会)
南小の宝

●情報の適切な取扱い方を学ぶ学習活動

小学校5年生の社会科の授業で、「私たちの生活と情報」について学習した内容を踏まえ、総合的な学習の時間を使って、インターネットの危険性を教えるだけではなく、実際に情報の受発信を体験させることで、自分が発信した情報が相手に与える影響やお互いに気持ちよくやりとりできるマナーなど情報の適切な扱い方を学ばせる学習活動を通して、欲しい情報を手に入れるには何が必要なのか、相手にわかるやすく伝えるためには何が必要なのかについて理解を深めさせる。



取組

●「インターネット教習所」をベースにした情報モラル教育への取組

テレビのニュース番組作りの様子やテレビのコマーシャルを切り口に情報について考えさせた後で、新聞記事に着目させ、情報の持つ影響力について学習した。学習の最後に、「南小学校の宝」をテーマに、自分たちで情報発信することを児童に知らせた上で、「インターネット教習所」を使った学習に取り組んだ。

- (1) 社会科「私たちの生活と情報」の学習
- (2) 「インターネット教習所」での学習
- (3) NetCommonsを使った受発信の学習
- (4) NetCommonsを使っての学習活動
 - ①取材した内容をNetCommonsでインターネット上に発信
 - ②友だちが書き込んだ内容を読み、コメントの記入
 - ③保護者との連携・協働・協働学習活動の公開と児童の取り組みに対する理解と励まし



成果

NetCommonsを取り入れたことで、IDとパスワードで守られた、安全で安心して学習できる環境を構築することができた。また、ワープロと同じ感覚で操作できるため、使い方の指導に時間を使うことなく、情報の適切な扱い方の指導に十分な時間をとることができた。特に、情報を発信する際に出てくる様々な問題について、その場で児童に考えさせ、指導することができるという点が、情報モラルの育成にとって最も効果があったと感じられる。

小学校総合的な学習の時間における情報モラル教育への取り組み

春日部市立上沖小学校

教諭：鷲林 潤吉

NetCommonsを活用して、国語や社会の授業で学習した内容を踏まえ、総合的な学習の時間における情報を発信する体験活動を通して、児童に情報モラル感覚と論理的な表現力の育成を目指した実践事例

概要

●授業計画

教科等：総合的な学習の時間(25時間扱い)

対象：小学校 6年

単元名：日本の文化について知ろう

●課題解決を通して、情報活用の実践力を高める学習活動

授業で学んだ知識を活かし、体験によって実践力を身に付ける活動の必要性が情報モラル教育には必要であると考え、修学旅行で訪れる会津若松市について調べ学習を行った。

修学旅行実施後には、自ら体験したことを基に「ガイドブック」を作成し、来年訪れる5年生に向け、NetCommonsを使って、実際に、インターネット上に公開した。ホームページを作成し、情報を発信する体験活動を通して、授業で学習したインターネット上のルールやマナーなどの知識を活かして課題を解決をしながら「実践力」を高めていく学習に取り組んだ。



取組

●複数の教科を横断した学習による情報発信

修学旅行実施後、5年生に向けたガイドブック作りでは、6年生国語「ガイドブックと作ろう」(光村図書)で習得したガイドブック作成上の留意点や基礎的基本的なルール、社会科で学習した歴史的背景等の知識を活かし、情報機器(デジタルカメラ等)を活用しながら探究的な活動となるようにした。

- (1) ふれるー修学旅行の目標について知り、会津をはじめ、日本の文化や歴史について調べていくことを知る。
- (2) つかむー課題をつかむ
- (3) 調べるー日本の文化や歴史について調べる
- (4) 高めるー調べたことや体験したことをわかりやすくまとめる
NetCommonsを使ってガイドブックを作り、公開する(発信)
友だちのガイドブックにコメントをつける(返信)
学習発表会を行い、学習を振り返る

成果

NetCommonsを使った体験活動が、授業で得た知識を定着させる役割を果たした。体験活動により、学習内容がイメージしやすくなり、児童の個人情報保護や著作権についての理解が深まった。

これまでは児童は、情報モラルについて意識して生活していなかったが、本活動を行った後では、100%の児童が情報モラルを守ろうと意識している。座学だけでは高まらなかった情報モラルへの意識が体験活動を取り入れることにより高めることができた

また、児童は、「ことばは人を傷つけてしまうことがあるので、ことばを選んでコメントした」などと、説得力のある感想を書くことができたようになった児童が増えた。

さらに、環境が整えば、長期欠席中の児童がNetCommonsを使ってクラスメイトと交流したり、授業の内容や進路などの情報を交換したりするコミュニケーションが成り立つと考える。

中学校技術・家庭科における情報モラル教育への取り組み

熊谷市立妻沼西中学校

教諭：関口 典夫

Net Commonsを活用して、自らの体験を通して学び得た知識を後輩である下級生に向けて情報発信する体験活動を通して、生徒に情報モラル感覚と論理的な表現力の育成を目指した実践事例

概要

●授業計画

教科等：技術・家庭科(選択)(10時間扱い)

対象：中学校 3年

題材名：ものづくり情報を後輩に伝授しよう

●情報交流による生徒の情報活用能力の育成

3年生の選択授業において、3年生が1年生のときに取り組んだ技術・家庭科(技術分野)の「技術とものづくり」の授業で生徒自らが体験を通じた作業を伴う学習活動で得た知識を整理した。

その後、作業のポイントや留意点等についてまとめ、新たに創り出した「情報」を、後輩である1年生がものづくりの学習に入る前に、情報提供し、1年生にアドバイスすることで、3年生と1年生の交流活動を通して学びを深める学習に取り組んだ。



取組

●Net Commonsによる情報発信

班分けは3班編制(構想に関するページ担当、切断・切削に関するページ担当、組み立てを中心とする作業に関するページ担当)とし、できる限り全員が一役以上担当するページが出来るように配慮した。

1年生と情報の交換を図るために行った素材の収集には、デジタルカメラを活用した。

特に、道具の使い方については、資料集や教科書にはない、自らの体験を通して得られた情報を中心に作成できるよう課題提示をした。ページに入力する前に、図や文章のレイアウトや内容についての構想をプリントに下書きさせ、推敲を重ねた後で、教師が内容の最終確認を行ってから入力作業に取りかけられるようにした。

1年生については、率直な感想や疑問点を仲間と相談しながら入力できるよう、ページの閲覧や入力については、2人で一台のパソコンを使用するなどの制限を与えて授業を行った。

成果

閉ざされたパソコン室内での疑似体験だと生徒の興味関心は長続きせず、緊張感に欠ける面もあったが、Net Commonsを活用しての実体験では、実際にインターネット上へ情報を公開することができ、興味・関心が高まり、緊張感のある体験をすることができた。様々な課題設定の可能性があり、活用範囲の広がりを感じられた。Net Commonsの「承認機能」を活用すれば、授業題材そのものが情報発信の材料に置き換えられ、授業や諸活動の情報公開がしやすくなる。また、発信者としての責任を意識づけるのに役に立った。情報交換を繰り返すことにより、さらに、相手を意識した情報発信が進むように思う。

中学校技術・家庭科における情報モラル教育への取り組み

加須市立昭和中学校

教諭：大越 幸哉

Net Commonsを活用して、学校生活における取組について保護者を対象に情報発信する体験活動を授業に取り入れ、インターネット上に情報を発信する体験活動を通して、生徒に情報モラル感覚と論理的な表現力の育成を目指した実践事例

概要

●授業計画

教科等：技術・家庭科(選択)(9時間扱い)

対象：中学校 3年

題材名：情報を発信して活用しよう

(行ってきたよ！作ってみたよ！調べてみたよ！報告するよ！)

●「情報の科学的な理解」を中心とした情報活用能力の育成

HTMLによるWebページ作成の基本を学習した後で、互いにWebページをリンクさせた。その後、情報発信のためのデータの収集と整理、加工方法を具体的に学ばせてから、NetCommonsを活用して実際に、インターネット上に情報を発信する体験活動を通して、生徒に情報発信の在り方と運用方法を含め、情報モラル感覚と論理的な表現力の育成のための授業を実施し、検証を行った。



取組

●Net Commonsによる情報発信

コンピュータによる授業に興味関心の高い選択技術・家庭科履修の生徒を対象に取り組みさせた。

情報発信のテーマを「昭和生が見聞きしたり、体験したりしたことをみんなに伝えよう」に設定した。生徒の手による情報の収集と整理、発信を段階的に進めた。

- (1) 事前アンケート調査及び情報活用能力調査
- (2) 情報発信する素材テーマのグループ分けと役割分担
- (3) 素材テーマの追究と情報発信
 - ①情報の整理とワークシートへの下書き
 - ②NetCommonsの操作方法と画像処理
 - ③画像処理方法
 - ④NetCommonsによる情報発信
- (4) 事後アンケートと振り返り



成果

NetCommonsを学習に利用した結果、学習前と後では情報モラルに対する生徒の意識に変容が見られた。具体的に授業で取り上げた内容の理解度も高められたことから、体験活動を伴ったこの取組のもたらした成果であるといえる。

NetCommonsの利便性や発展性について、教師も生徒も理解して運用できたこと、NetCommonsによる情報発信は、児童・生徒の活動を活性化することがわかった。

教育委員会におけるNetCommonsの効果的な活用への取り組み

和光市教育委員会

副主幹兼指導主事：隅田 浩文

Net Commonsの活用により、その操作性に即したWebサイトの構築、その機密性により、閲覧者制限による個人情報保護、グループウェア機能の活用による校務の効率化を図り、広く教育利用に向けた取組を推進している。

概要

●和光市の情報教育環境

和光市には、市内に小学校8校、中学校3校の公立学校があり、平成16年8月に教育委員会センターサーバによる各校情報機器の維持、管理、高速回線の導入、平成17年8月には、校内無線LANの構築と教職員へのノートパソコンの導入をし、グループウェアによる掲示板、職員間メールの活用、データの共有化を図っている。



●PCインストラクターの配置

平成15年度より各校へPCインストラクターを配置し、平成21年度には、各校平均72日間の勤務となっている。主な業務内容は、情報機器の点検、管理、授業の指導補助、教職員及び児童・生徒のリテラシーの向上等である。

取組

●Net Commonsサーバの構築

平成21年8月、教育委員会センターサーバに「NetCommons2.0」を導入した。サーバの仕様作成については、国立情報学研究所社会共有知研究センター研究員の方から協力をいただいた。また、Net Commonsに関する保守、整備、研修については、サーバ管理業者にCommons Netの会員になってもらい、サーバとの一括管理をお願いしている。

●Net Commonsの活用に向けた取組

職員のNet Commonsの操作性向上を目的に、教育委員会主催の管理職、情報教育主任、インストラクターを対象とした実技研修を2回実施した。これを受け、情報教育主任には、各校の教職員に対して操作説明の研修を実施してもらった。

Net Commons導入前の古いホームページから、Net Commonsによるホームページへの移行を管理業者に行ってもらった。そのページを基に、各校ホームページ担当者が編集を加え、それぞれのホームページを完成させた。平成21年度内には、市内すべての小・中学校のホームページをNet Commonsによる新たなホームページに移行する作業を完了した。

今後の活用

- ・各校のホームページの充実(作業の分散化、多面的積極的な情報公開、新鮮な情報提供等)
- ・グループウェア(マイルーム)の活用
- ・学習コンテンツの共有化(教材・資料等の共有化、デジタルデータの授業での活用)
- ・Net Commonsを活用した学習(授業での利用を通じた情報活用能力、情報モラル教育の推進)

第4章 まとめ

1 考察—研究の成果と今後の課題

(1) 仮説についての検証

仮説（1）について、Net Commons を基盤にした「インターネット教習所」を用いて、単元等の学習の中に「情報発信」による体験活動を通じた情報モラル学習を展開することで、児童・生徒にリアルなネット体験の場を提供することができた。その操作のしやすさから、小学校3年生の児童にも利用できることを実証できた。小学校の早い時期から発達段階に応じて、こうした体験活動を段階的に積み重ねていくことで、子どもたちは、自然に情報モラル感覚を身に付けていくことが可能であると思われる。

ログインの際にユーザIDとパスワードの入力を義務付け、サイトの閲覧や学習サイトへの参加を制限したことで、安全で安心な情報発信が可能になり、学習への利用が図りやすく、児童・生徒の学習指導にとっても効果的であった。また、教科等の授業で学習した内容が、情報を発信する体験活動と結び付いたことで、児童・生徒は、学習内容への理解を深めることができた。教科等における単元等学習の中に、情報モラル学習を取り入れたことで、児童・生徒の情報モラルに対する意識が高まり、情報モラルが態度として身に付くなど、実践力を高めることにつながった。このことから、情報モラル学習サイトを使えば、情報モラル学習の指導が進めやすくなるということが出来る。

仮説（2）について、児童・生徒は、情報を発信する体験活動を通して、情報モラル感覚を身に付けることができた。同時に、文字だけでコミュニケーションを行うことの難しさについても理解することができた。児童・生徒は、情報を発信する過程を通して、分かりやすく伝えるための語句や表現、内容を考え、意見を交換し合うことで、論理に基づいて表現することの必要性を理解し、論理的に表現できる児童・生徒の姿が見られるようになった。情報を発信するために、発信者である児童・生徒が受信者の立場に立ち、どうすれば伝えたい情報を正しく、わかりやすく伝えることができるかを論理的に思考し、判断し、表現方法を工夫したことで、児童・生徒は、情報モラル感覚を身に付けることができたと考えられる。このことから、論理的に表現する力が児童・生徒に身に付けば、児童・生徒は、情報モラル感覚も身に付けることができるといえる。

(2) 研究の成果

ア 小学校の報告から（和光市立第五小学校、鴻巣市立赤見台第一小学校、吉見町立南小学校、春日部市立上沖小学校）

NetCommons を使えば、児童はリアルなネット体験をすることができる。NetCommons は、自分が作成した情報を離れた相手に見てもらい、それに対するコメントを返してもらえという特徴を持っている。普段では相手に伝えるという表現活動に対して、あまり意欲を示さない児童も関心をもって活動することができた。

NetCommons を使った表現活動の時に、児童は自然に必要な情報を選び、必要なことばを自然に使うことができた。今回文字数を200字、100字と制限したことにより、児童は不必要なことばを使わないよう心がけていた。

和光市立第五小学校の場合、さらに、「相手（受信者側）はこちらが見学した訪問先の農家が、栽培している作物が何であるかを知っていること」や「使用している機械の名称も個々の農家によって異なること」などを念頭に入れて記事を書くことができた。それによって、より

詳しく説明することの重要性を学ぶことができた。

児童は、純粋な気持ちで「相手がいやな気持ちにならないように、失礼なことばは使わない」と決め、学習に真剣に取り組んでいた。わざとふざけてみようとしたりすることはなかった。やはり、早い時期からこのような経験を積むことで、自然に情報モラルを身に付けていくことはとても大切である。例えば、低学年が交通安全教室をすることによって、車に対する危険性を学ぶように、低学年のうちから正しい情報モラルを教えることで、インターネットというものを有効に活用するようになると考えた。そのためには、NetCommons の機能はとても有効であることが実証された。

情報モラルを児童に育成するためには、日常生活の中で自然に培われるモラルだけでなく、「情報に対する知識」を理解することが不可欠である。そのためには、情報化社会が持つ特有の文化ともいべき特性（「良心」という最大の規範意識の源が、匿名性によって働きづらいことなど）を理解することが重要である。

しかし、受動的に教えられただけの「知識」は、「生きた知識」として実践力にまで高められ、実際の生活の中で生かされることはあまり期待できないと考える。今回の研究では、NetCommons を活用することにより、情報モラル学習を「体験的」に進め、「メディアを通じての心と心のコミュニケーション」という、情報モラル感覚を育成する上で最も重要な経験ができたように感じている。

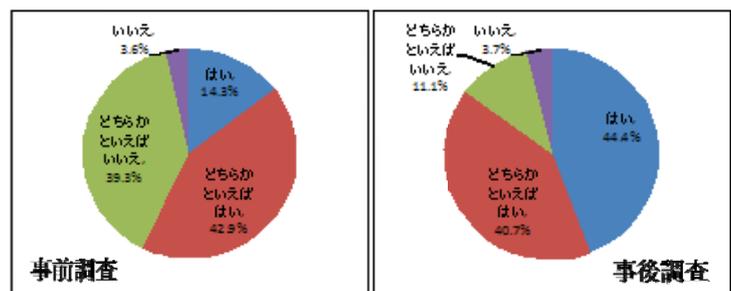
鴻巣市立赤見台第一小学校の場合、学力に差異がそれほど認められない2クラスの「情報モラルチェックテスト（資料1）」（全20問、二者択一テスト）の平均点を比較すると、「本単元を学習したクラス」は87.3点、「学習していないクラス」は77.2点で、学習したクラスが約10点上回っており、「本単元を学習したクラス」は、情報モラルに必要な知識を身に付けられたことが分かる。

情報モラル教育を進める上で、児童が体験的な学習を進めながら、情報モラルについて学ぶことは、児童にとってとても重要である。

「情報の受信者」としての情報モラル教育を行う学習環境は、比較的用意しやすい。

しかし、「情報の発信者」としての情報モラルを学ばせる環境は、パソコン室などの限られたネットワーク内であれば容易に設定することができるが、実際のインターネット上に設定するとなると、様々な要因から、大きな制限と危険が伴う難しいものになってしまう。そのような実情の中、NetCommons を使えば、「手軽に安心なインターネット上の学習環境」を作り上げることが可能である。特に、情報モラル学習において「実際のインターネット上に情報を発信している」という環境は、児童にとって新鮮さと緊張感のある、とても効果的な学習環境であるといえる。

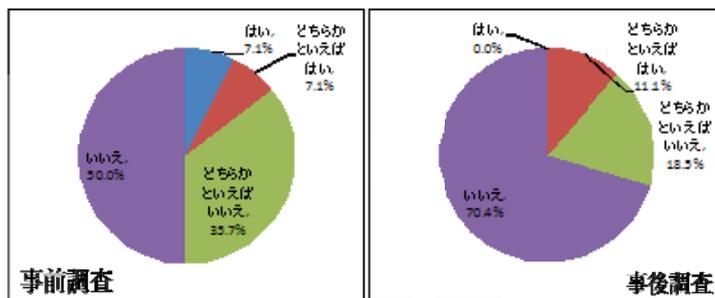
吉見町立南小学校の場合、研究の成果と課題を検証するため、「質問紙法（資料2）」による調査を事前と事後に実施した。両者の間で大きな差が見られ、成果を確認することができた。



設問1「インターネットのルールやマナーをいくつか説明できる。」については、事後調査で「はい」と答えた児童は30.1ポイント増えた。「どちらかといえばはい」を含めると85.1%の児童が、説明できると回答した。

ルールやマナーについては、一度教えればよいとか、一度説明すればよいというものではない。情報を受発信する学習の中で適宜指導を行った結果であると考える。

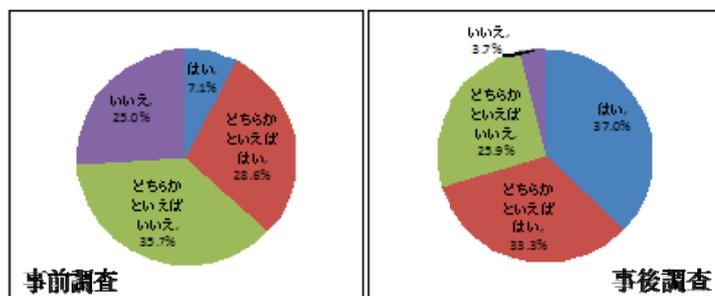
設問2「やさしい人からネットの掲示板で誘われたら会ってみたい。」については、「いいえ」と答えた児童が20.4ポイント増え、「はい」と答えた児童は一人もいなくなった。出会い系サイト



についての学習は、一切実施していなかったが、情報発信を通して体験的に学習することで、インターネットの仕組みやことばだけでコミュニケーションを行うことの難しさについて、児童が主体的に考えることができた結果ではないかと考える。

設問5「個人情報がどのようなものか、例をあげて説明できる。」については、「はい」と答えた児童が29.9ポイント増えた。「どちらかといえばはい」を含めると70.3%になった。

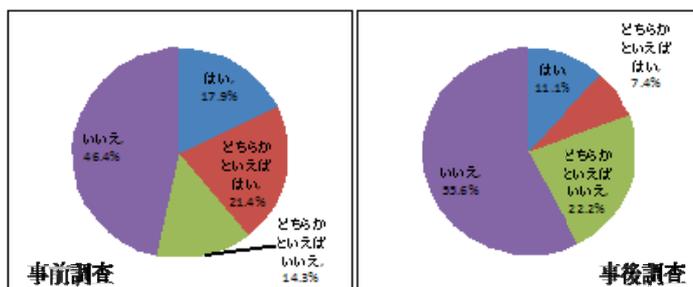
児童一人ひとりに「認証カード」を作成して持たせたことで、児童にユーザIDやパスワードを意識させたこと、インターネット上に文章や写真を使って情報を作成し、それを発信する活動を通して、継続的に個人情報の取扱い方



を指導してきたことにより、個人情報に関する知識が児童へ浸透していった結果であると考え

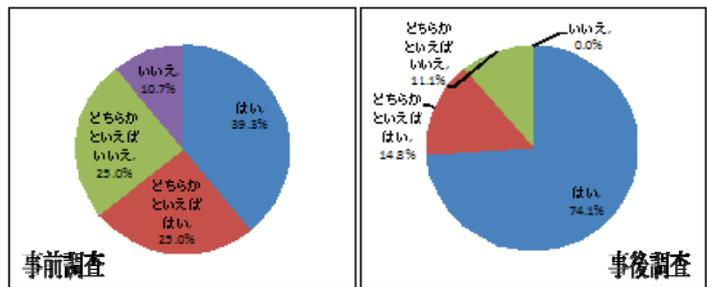
る。

設問6「意味がわからないページでも『OK』をクリックすることがある。」については、事後調査において「はい」と答えた児童は、6.8ポイント、「どちらかといえばはい」と答えた児童は14.0ポイント減少し、二つを併せると20.8ポイントの減少が見られた。社会科の学習の中で取り上げた「情報の中には正しくないものもある」ことや「インターネットでの情報の受発信の際は真剣に行わなければならない」という考え方が、児童に身に付いてきた結果であると考え



る。

設問9「自分のパスワードが他人に知られるとどうなるのかわかる。」については、「はい」と答えた児童は、34.8ポイント増加し、「どちらかといえばはい」と答えた児童は、10.2ポイント減少した。「はい」と「どちらかといえばはい」を併せる

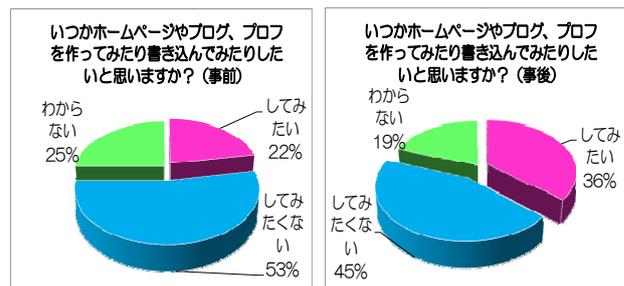


と24.6ポイント増え、88.9%になった。ユーザID、パスワードを児童一人ひとりに配布したことで、児童は、パスワードの大切さについて実感していた。学習活動に実感が伴ったことで、学習した内容を児童に知識として身に付けさせることができた結果と考える。

これらのことを含め、NetCommonsを授業に取り入れ、活用したことで、ユーザIDとパスワードで守られた安全で安心して学習できる環境を構築することができた。

また、ワープロと同じ感覚で操作することができるため、NetCommonsの操作に対する指導に必要な以上の時間を費やさずに済むことから、情報の適切な扱い方の指導に十分な時間をとることができた。特に、個人情報の保護や不適切な表現など情報を発信する際に出てくる様々な問題について、問題が生じたその場で児童に考えさせ、教師が指導できる点が、児童の情報モラル感覚の育成に最も効果的であったと思われる。

春日部市立上沖小学校の場合、事後アンケートの結果から、インターネット上のコミュニケーションを体験することによりホームページのよさに気づき、いつかホームページやブログ、プロフィールを作りたいと思う児童が増えた。



「何かに巻き込まれたらいやだから」「こわいから」「悪用されたくないから」など、

数値の上ではホームページの作成に消極的な児童が多く見受けられる。

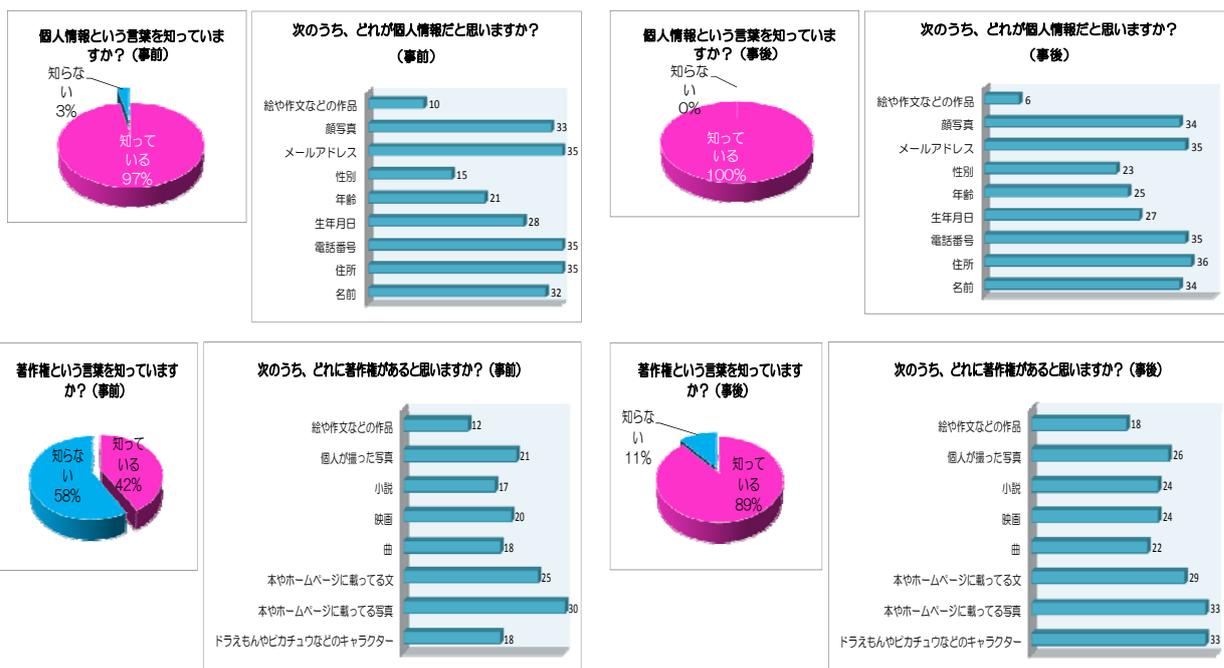
しかし、冬休み期間中に試験的に運用した「冬休みのコミュニケーション」ページでは、宿題の進み具合や休み中の過ごし方などについて情報を交換し合うなど、児童が自宅から記事やコメントを書き込んだり、ページを閲覧して情報を共有したりするなど、児童はサイトを有効に活用していた。こうした児童の取組から、環境を整えば、長期欠席中の児童がNetCommonsを使ってクラスメイトと交流したり、授業の内容や進捗などの情報を交換したりすることができるようになり、互いのコミュニケーションを深める効果的なツールとしての活用が広がると考える。

また、NetCommonsを活用することで、授業での学習と体験活動が相乗効果を生み、「個人情報」や「著作権」に対する理解が深まり、児童の実践力を高めることができた。

「個人情報」や「著作権」などは、最近ニュース等で取り上げられる機会が増えているとは言え、児童にとっては、日常生活の中で触れる機会が殆どないことばであるため、学習していても実生活と結びつけることが難しい。本研究の取組において実施したNetCommonsを使ったホームページ作りでは、ホームページを作成する体験活動が、授業での学習で知り得た知識を

定着させる役割を果たした。

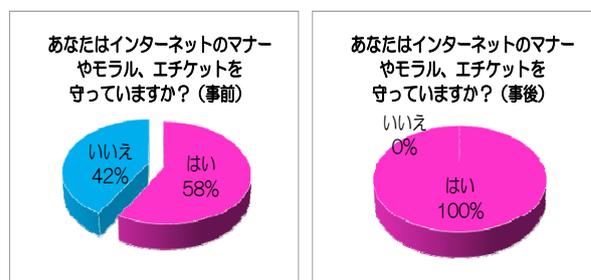
また、授業において自らの体験活動を思い出すことにより、児童は学習している内容について



て、今まで以上に容易にイメージすることができるようになっていた。その結果、「個人情報」や「著作権」に対する児童の理解が深まり、実践力を高めることができたと判断する。

さらに、体験活動を取り入れることにより、情報モラルに対する児童の意識も高めることができた。

調査結果からわかるように、今まで児童は、情報モラルについて意識した生活をしていなかったが、この研究を行った後では100%の児童が情報モラルを守ろうと意識している。教室の授業だけでは高めることができなかった情報モラルへの意識が、体験活動を取り入れることによって高められた結果であると考えられる。コンピュータ教室の中だけの擬似体験ではなく、リアルなネット社会を体験できる NetCommons を活用したことで、児童も今まで以上に緊張して記事を書いていた。NetCommons の活用が、児童の意識を高揚させた結果であると考えられる。



上沖小学校では、情報モラル教育を教育課程に位置付け、系統的・計画的に推進している。

児童に実施した実態調査アンケートの結果などから、情報モラルに対する知識は高まっているが、実践する力にまでは高められていなかった。このことから、実践力を高めるためには教室等の授業に加え、ホームページ等を作成するなどの体験活動が有効である。この NetCommons を使えば、児童でも簡単にホームページを作成することが可能である。

また、管理も比較的容易であるため、小学校での体験活動を取り入れた学習に適していると考えられる。この NetCommons を使い、ホームページ等を作成する体験活動を行うことにより、授業での学習により得られたインターネット上のルールやマナーについての知識が生かされ、児

童の「実践力」を高めることができた。

さらに、本研究を通して、児童は、論理に基づく表現ができるようになってきている。学習終了後の自己評価の中で、「ことばは人を傷つけてしまうことがあるので、ことばを選んでコメントしたいです。」「ユーザIDやパスワードを誰かに教えてしまうと悪用されてしまう可能性があるので、絶対教えないように気をつけます。」など、原因や理由を示す接続語を用いて説得力のある感想を書いていた。これは、見えない相手に対して分かりやすく伝えるために、記事の内容を考えたり、お互いにコメントを読み合っただけで記事を修正したりする活動がもたらした結果であると考えられる。

イ 中学校の報告から（熊谷市立妻沼西中学校、加須市立昭和中学校）

熊谷市立妻沼西中学校の場合、NetCommons は、インターネット上に閉ざされた環境にも開かれた環境にも設定が可能であるだけでなく、ソフトの操作方法の説明等に多くの時間を必要としないことから、生徒は、比較的容易に情報を発信する活動に取り組むことができた。特に、1年生は、他の学年に比べコンピュータ室のパソコン操作に不慣れであったが、コメント等の入力をスムーズに行うことができていた。

NetCommons の「承認機能」を活用すれば、授業の題材そのものを情報発信の材料として置き換えることが可能である。よって、擬似的な体験活動にとどまらず、活用題材そのものが学校の情報発信の素材となり得ることから、授業や学校での諸活動について家族や地域等への情報公開がしやすくなると思われる。

生徒が作成した情報がインターネット上に開かれた情報となる体験、つまり、NetCommons を使った情報発信による体験活動を行うことで、生徒に発信者としての責任を意識付けることに大いに役立てることができる。

日常生活におけるメールの送受信等の体験では、発信者としての責任や著作権・肖像権等に対して注意を払う意識は低い。

しかし、学校の代表者として情報を発信するという意識を高めることができれば、日頃の活動においても意識化が図れると考える。

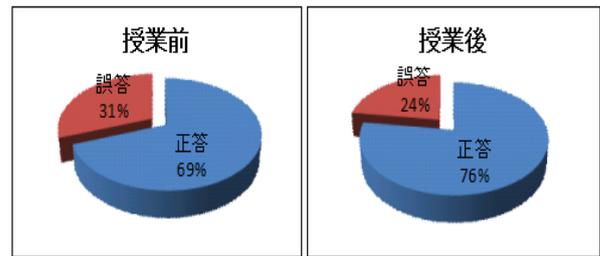
「自分の作成した情報は、相手にどう見えているのか」ということを意識させるには、今回の3年生と1年生の間に交わされた情報のやりとりは有効であったと思われる。既習の3年生にとっては何でもないことばや表現が、未習の1年生にとってはそれらが質問の対象になっていた。こうしたことも情報交換を繰り返すことにより解消され、情報の受け手を意識した更なる情報発信に高めていくことができるとと思われる。

情報を発信するための素材収集に、生徒はデジタルカメラを使用した。最初は、「個人情報」を意識せずに写真を撮影していた生徒が多かったため、教師は作成した情報を承認しなかった。その後の撮影で生徒は、承認されなかった理由を話し合ったことで、撮影方向や人物の向き、名札等の個人情報への意識が高まり、生徒は意識的に工夫して撮影を行っていた。特に、カメラアングルの違いによって、見え方に大きな変化があることに気付き、道具とカメラの位置関係に注意を払いながら撮影を行っていた。

NetCommons を使えば、校内の学年間の情報交換も学校間の情報交換も同様の操作で行うことができるので、適切な題材を設定することができれば、使用範囲はかなり広がると思われる。

特に、パソコンや場所を選ばずに操作ができるので、ハード面の環境が整えば、コンピュータ室に限らず教室内外で使用でき、観察場所や発見場所を情報発信の場にすることも可能となる。

加須市立昭和中学校の場合、生徒 45 名を対象に授業前に実施した「情報モラルに関するアンケート（資料 3）」の正答率が、69%であったのに対して、授業後の正答率は 76%であった。授業では、アンケート内容のすべての項目に対して詳しく解説することはな

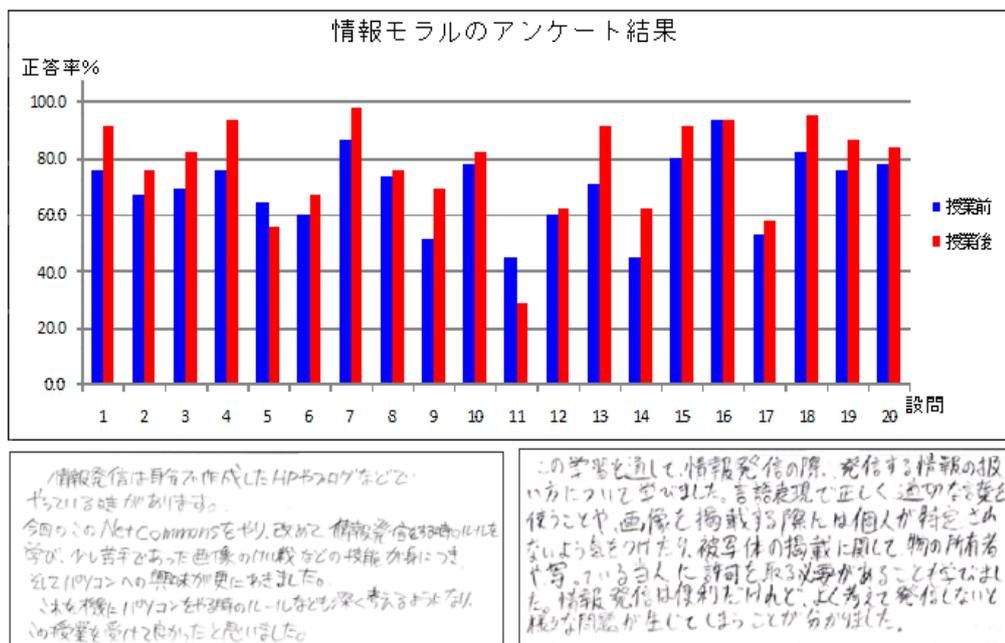


かったが、正答率に 7 ポイントの上昇が見られた。生徒に情報モラルを意識させながら Web ページを作成させ、文章表現に配慮させながら情報発信に向けた取組を進めたことが、情報モラルに対する生徒の意識を高めた結果によるものと考えられる。

アンケート結果によると、携帯電話を持っている生徒は全体の 77.8%で、そのうちブログなどのサイトに書き込みをした経験のある生徒は 22.9%であった。

また、インターネットに接続可能で自分が使えるパソコンを持っている生徒は全体の 80.0%で、実際に、ブログや Web サイトに書き込みをした経験のある生徒は 8.3%であった。携帯電話の電子メールは気軽にいつでもどこからでも情報を送受信できることから、この機能を用いて自己表現する生徒は多い。しかし、積極的にパソコンを使って Web ページ上に表現する生徒はまだまだ少ないといえる。

アンケートの結果、授業前と授業後の正解率の上昇が 15 ポイント以上の伸びを見せた設問は、設問①「ある人の趣味について、本人の許可を取らなくても、事実なら公開してもかまわ



情報発信は自分で作成したHPやブログなどで
 している時が多いです。
 今回のこのNet Commonsをやり、改めて情報発信の時も
 学び、少し苦手であった画像の掲載などの技能が身につ
 いてパソコンへの興味が増えました。
 これを機にパソコンを所有のレベルなどが深く考えるための
 授業を受けて良かったと思いました。

この学習を通して、情報発信の際、発信する情報の扱
 い方について学びました。言葉表現で正しく適切な表現を
 使うことや、画像を掲載する際には個人が特定され
 ないよう気を付けた。被写体の掲載に関して、物の所有者
 や写っている本人に許可を取る必要があることを学びまし
 た。情報発信は便利だけれど、よく考えて発信しないと
 様々な問題が生じてしまうことが分かりました。

【授業後の生徒の感想】

ない。」、設問④「自分が写っている集合写真を自分の Web サイトで公開するときは、写っている他の人に許可を得る必要はない。」、設問⑨「自分の好きな歌をみんなにも知ってほしくて、自分の Web サイトに歌詞を掲載する。」、設問⑬「Web サイトの情報は公開されていて

著作権がないので、引用のルールを守る必要はない。」、設問⑭「『引用』するときには、引用部分をカギ括弧でくくるなど、自分の意見とはっきり区別しなければならない。」の5つの設問であった。これらは、授業で具体的に扱った内容でもあるため、生徒の理解度を高めることができたものとする。

これとは逆に、設問⑤「店頭で見た新商品の価格や印象などを、インターネットの掲示板に書き込む。」、設問⑩「学習や論文のためなら、他人の作品を『引用』できる。」の2つの設問では、正答率が10ポイント前後下がっていた。著作権などの解釈については、生徒にとって理解しにくい部分を含んでいるようなので、機会ある毎に指導を繰り返していく必要がある。

NetCommonsは、自分専用のページを設けることができるので、個人情報の漏洩問題についても解消することができる。また、情報発信の対象を保護者など特定の対象に限定することが可能であることから、特定の対象に限定した更新頻度の高い運用も容易に実現することが可能である。

(3) 課題

ア 小学校の報告から

(7) 教師に対する課題

現状では、情報モラルについてよく理解していない教師がまだまだたくさんいる。

「情報化社会の負の部分による情報モラル教育の必要性」については、教師にも多くの情報が入ってきている。多くの教師は、情報モラル教育の必要性を感じているものの、情報モラルを扱った授業の経験が少なく、情報モラルに対する意識にも差が見られる。依然として、情報モラル指導に苦慮している教師は多い。

実際に多くの教師が、情報モラル教育に関心を持ち、「自分もやってみよう」と思うようになるためには、情報発信の楽しさやそれによって広がる世界の広さを、教師自身が知ることである。このことが、情報モラル指導の鍵となると思われることから、NetCommonsを活用した授業を積極的に行うなど、教師自身に情報モラルの重要性を認識させる必要がある。

(4) 児童に対する課題

赤見台第一小学校の場合、授業後に行ったアンケートの結果、研究に取り組んだクラスの正答率に顕著な差が見られた問題は、設問4「インターネットであるページを見ていたら、『ご利用ありがとうございます。2週間以内に3万円をご入金下さい。』という画面が急に表示された。自分は、なにも買った覚えがないので、相手の連絡先に『払うつもりはありません。』という電子メールを送った。(正答：×)」で、正答率は「53.3%」であった。

問題 No.	問題文	1組正答率(A)	2組正答率(B)	割合(A/B)
6	自分が買った音楽CDを、友だちにコピーしてあげた。 これは著作権法上、ゆるされている。(正答：×)	66.7%	74.2%	0.90
11	インターネットの掲示板に、「名前」を書かなければ「電話番号」などを書いても問題はない。 (正答：×)	66.7%	58.1%	1.15

また、正答率が低かった問題は、設問6、設問11であった。これらの問題の傾向を見て

みると、「日常生活の常識や考え方では判断できない問題」や「著作権など教えてもらわないとわからない、理解しづらい問題」であった。設問6については、「著作権」についての授業を行った際「私的利用のコピー」について説明が不十分であったため、児童が誤って理解してしまったことが原因と考えられる。

児童に多くのことを伝える必要がある単元の学習であっても、児童の実態に即して学習内容を精選し、確実に理解させる手だてを考えて、授業を行う必要がある。

また、「個人情報の保護」に関する設問11については、「バラバラな情報でも、集めたり調べたりすると重要な個人情報になる得ること」等についても学ばせる必要がある。これらの結果から、情報モラル教育の必要性を改めて感じた。今後予想されることとして、児童は、学年が進むにつれてネット環境に慣れてくると、興味本位に反モラル的行動に出る場合が考えられることから、今後も継続的に情報モラル教育を進めていく必要がある。また、NetCommonsを活用した特別なサイト上への情報発信と、一般のサイトへの情報発信の場合とは、留意すべき点が大きく異なることについても、児童に十分な指導を行う必要がある。

(ウ) 保護者に対する課題

児童が意欲を持続し、積極的に情報発信を行うためには、情報の受信者からの返信があることが必要である。そのためには、児童にとって身近な存在である保護者の協力が不可欠であり、保護者との連携をより一層充実させる必要がある。手始めとしては、保護者に毎日ホームページを閲覧してもらえよう、コンテンツの充実を図り、積極的な情報発信、情報公開を全職員で推進する必要がある。

イ 中学校の報告から

熊谷市立妻沼西中学校の場合、3年生は、自分の体験を中心に資料集や教科書にない情報の提示を目標としたが、どうしても資料集や教科書に頼ってしまっていた。教師側が、ものづくり体験後にアンケート調査等を実施して記録を取り、体験を通して感じたことや学習を通して生じた疑問点等を情報収集しておけば、それらを有効に活用することができたと思われる。今後は、体験活動のアンケート調査で、体験での驚きや発見、疑問が発生した点等の情報収集を行い、次の体験者（後輩）に生かせるようにする必要がある。

生徒の感想には、「NetCommonsを使うと、情報を容易に公開できる」ことに対して驚きを感じたものが多かった。

しかし、目的に応じたタグを使用してのホームページの作成とは異なるため、「ページの細部に亘って、思うように作成することができない」という感想も見られた。生徒の悩みや疑問に答えられるよう、NetCommonsの操作方法の更なる研修が教師に必要である。

クラス担任制の小学校では、授業に小回りがきき、各教科や領域等で授業が進めやすく、NetCommonsによる情報の発信も的を絞れば児童の活動を活性化する指導が可能である。

一方、教科担任制の中学校では、授業に小回りが利かず、各教科や領域等での授業が進めにくい面がある。

また、中学校でも、小学校同様、教職員間の情報活用能力に依然としてかなりの個人差が見られるため、特定の個人に作業が集中することが少なくないことから、クラス、学年、生徒会、部活動、教科部会、保護者会等の組織毎に情報を発信する土台を整備し、特定の個人だけに作

業をさせることは避けなければならない。そのため、教職員の共通理解と校内研修の充実が求められる。

大規模校では、「技術・家庭科」の授業だけでコンピュータ室の使用が制限されてしまうことがある。その結果、授業における生徒の様々な情報発信の機会は、自ずと少なくなってしまうという現状がある。中学においては、特別活動や課外活動など授業以外の活動におけるコンピュータ室の活用方法についても検討する必要がある。

今後は、課題に対する改善を進める一方で、今回作成した学習システムが、多くの学校で利用できるよう工夫・改善し、さらに使いやすいものにしていきたい。

また、今回実施した検証授業では、小学校においては、社会科と総合的な学習の時間、中学校においては、技術・家庭科（選択）と教科が限定されてしまったが、他の教科での活用についても引き続き研究していくとともに、論理的な表現力と情報モラル感覚の育成の関わりについてさらに研究を深めていきたい。

資料1 情報モラルチェックテスト 全20問 二者択一テスト

- 1 インターネットには、正しい情報もあれば、まちがった情報や人をだまそうとする悪いページもある。
- 2 インターネットの情報を利用するときには、「だれが」「何の目的で」発信している情報か、考えながら利用した方がよい。
- 3 インターネットにある「クイズ」や「アンケート」は、いい景品がもらえるので利用した方が得である。
- 4 インターネットで、あるページを見ていたら、「ご利用ありがとうございます。2週間以内に3万円をご入金下さい。」という画面が急に表示された。自分は、なにも買った覚えがないので、相手の連絡先に「払（はら）うつもりはありません。」という電子メールを送った。
- 5 「総合的な学習の時間」に、インターネット上の「日光江戸村」の写真をコピーして、自分の発表資料に利用した。これは、「著作権法(ちよさくけんほう)」上、ゆるされている。
- 6 自分が買った音楽CDを、友だちにコピーしてあげた。これは「著作権法(ちよさくけんほう)」上、ゆるされている。
- 7 自分が書いた習字の作品でも、上手(じょうず)に書ければ、立派な「著作物(ちよさくぶつ)」となる。
- 8 電子メールでまったくおぼえない「請求書(せいきゅうしょ)」が来たので、送信元へ「関係ないので、払(はら)いません。」という返信メールを送った。
※請求書(せいきゅうしょ)＝お金を払うようにさいそくする書類。
- 9 人の写真を撮(と)るときには、その人に許可(きょか)をもらってから撮(と)ったほうがよい。
- 10 ホームページは、すぐに削除(さくじょ)されるので、どんな情報でも気軽(きがる)に発信しても、だいじょうぶである。
- 11 インターネットの掲示板(けいじばん)に、「名前」を書かなければ「電話番号」などを書いても問題はない。
- 12 インターネットの掲示板(けいじばん)は、だれが書いたのか見つけることはできないので、何を書いても、書いた人を見つめることはできない。
- 13 インターネットの掲示板(けいじばん)などで、話が合った人のことを、「自分と分かり合えらるとも親しい人」と、思いこんでしまうことがある。
- 14 インターネットの掲示板で、しつこく自分の悪口を言われたので、相手にせず無視してその掲示板から立ち去った。
- 15 インターネットの掲示板で知り合った人に「お願い！教えて！」と言われたので、自分のメールアドレスと携帯電話番号(けいたいでんわばんごう)を教えてあげた。
- 16 インターネットの掲示板に、「食事してくれたらおこづかいをあげます」という書き込みがあったので、自分の連絡先を書き込んだ。
- 17 インターネットの掲示板で会話するときには、仲良くコミュニケーションするために、気軽な言葉づかいで書き込んだ方がいい。
- 18 自分が書いたミッキーマウスの絵は、著作権法上の複製(コピー)にはならない。
- 19 「著作権」とは、「自分が作った作品などを、他人に勝手に使わせない権利」である。
- 20 「著作権法」がなくなれば、自由に映画や音楽などをコピーできるので、生活が豊かで楽しくなる。

資料2 情報モラルに関するアンケート

情報モラルに関するアンケート	年 組 番
-----------------------	-------

今、みなさんがどのように考えているかを、調べる調査です。成績には一切関係ありませんので正直に教えてください。(学年、組、番号は、アンケートの整理・集計のためだけに使用します。)

質問1 あてはまる番号に○をつけましょう。

質 問	はい	どちらかとい えばはい	どちらかとい えばいい	いいえ
1 インターネットのルールやマナーをいくつか説明できる。	1	2	3	4
2 やさしい人からネットの掲示板で誘われたら会ってみたい。	1	2	3	4
3 相手の立場を考えずに行動することがある。	1	2	3	4
4 他の人に見つからなければ悪いことをしてしまう。	1	2	3	4
5 個人情報がどのようなものか、例をあげて説明できる。	1	2	3	4
6 意味がわからないページでも「OK」をクリックすることがある。	1	2	3	4
7 やるべきことがあったらテレビは見ない。	1	2	3	4
8 ホームページの情報が本当か、確かめる方法がわかる。	1	2	3	4
9 自分のパスワードが他人に知られるとどうなるのかわかる。	1	2	3	4
10 人が困っているときは相談にのる。	1	2	3	4
11 著作権、肖像権の意味を言える。	1	2	3	4
12 コンピュータウイルスからパソコンを守る方法がわかる。	1	2	3	4
13 個人情報を他人から聞かれたらその目的を考える。	1	2	3	4
14 みんなが使う物や人から借りた物を大切に扱う。	1	2	3	4
15 人に迷惑をかけるようなことはしない。	1	2	3	4
16 インターネットでこまったことがあったら大人に相談する。	1	2	3	4
17 コンピュータネットワークがどこで利用されているのか言える。	1	2	3	4
18 誘われても、いけないことなら断る。	1	2	3	4
19 パソコンを長時間してはいけない理由が言える。	1	2	3	4
20 人の話を最後まで聞かないことがある。	1	2	3	4

資料3 情報モラルに関するアンケート

1 情報発信について、次のうち、正しいと思うものをすべて選んでください。

- ①ある人の趣味について、本人の許可を取らなくても、事実なら公開してもかまわない。
- ②写真を撮るときは、写る人にあらかじめ許可を得る必要がある。
- ③タレントなどの有名人の写真なら、Webサイトに掲載するときは許可は必要ない。
- ④自分が写っている集合写真を自分のWebサイトで公開するときは、写っている他の人に許可を得る必要はない。
- ⑤店頭で見た新商品の価格や印象などを、インターネットの掲示板に書き込む。
- ⑥自分が直接耳にした「〇〇銀行が倒産するかも」といううわさを、多くの人に知らせてあげようと、インターネットの掲示板に書き込む。
- ⑦自分の撮った友だちの写真を、友達には内緒で自分のWebサイトに公開する。
- ⑧自分の撮った風景写真を、自分のWebサイトに掲載する。
- ⑨自分の好きな歌をみんなにも知ってほしいので、自分のWebサイトに歌詞を掲載する。
- ⑩誰もが自由に情報を発信できるから、インターネットには、事実ではない情報も公開されている。
- ⑪学習や論文のためなら、他人の作品を「引用」できる。
- ⑫新聞や本など、売り物からは「引用」できない。
- ⑬Webサイトの情報は公開されていて著作権がないので、引用のルールを守る必要はない。
- ⑭「引用」するときは、引用部分をカギ括弧でくくるなど、自分の意見とはっきり区別しなければいけない。
- ⑮引用先を明らかにさえすれば、いくらでも他人の作品をコピーして、自分の作品に取り入れてかまわない。
- ⑯インターネットは、世界中につながっている。
- ⑰インターネットは、中心がないので、一部が壊れても残りは動き続ける。
- ⑱インターネットでは、違法コピーなどの問題点も数多くある。
- ⑲チャットや掲示板に書き込む際は、自分が正しいと思っている考えは、たとえ反論があっても自分の意見を最後まで通す。
- ⑳チャットや掲示板に書き込む際は、文字だけで表現しなければならないので、慎重に言葉を選んで書き込む。

(株式会社ジャストシステム 情報モラル実践ガイドより一部引用)

2 あなたは、自分で使える携帯電話を持っている。

はい (ブログも開設し、書き込みをしている。) いいえ

3 あなたは、自分で使えるパソコン (インターネット接続可能) を持っている。

はい (ブログやホームページも開設し、書き込みをしている。) いいえ

謝辞

本研究の実施にあたり、県内公立小中学校のご協力により、調査研究を実施することができました。ご協力いただきました関係小中学校の校長先生を始め、教職員並びに児童・生徒の皆様にお礼申し上げます。また、研究にあたり連携・協力いただいた国立情報学研究所の新井紀子先生、松本太佳司先生には一方ならぬご指導をいただきました。心より感謝申し上げます。

参考文献

【主な参考文献】

- 「小学校学習指導要領解説 総則編」(文部科学省)平成20年8月
「小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」(文部科学省)平成20年8月
「中学校学習指導要領解説 総則編」(文部科学省)平成20年9月
「教育の情報化に関する手引き」(文部科学省)平成21年3月
新井紀子編著「私にもできちゃった！ ネットコモンズで本格ウェブサイト」(近代科学社, 2009)

【Web サイト】

- 「筑西市立竹島小学校」<http://www.chikusei.ed.jp/takesho/>
「インターネット教習所／情報モラル教室」<http://morals1.spec.ed.jp/test/htdocs>
「NetCommons の歩き方」
http://www.netcommons.org/nc20/nc20_manual/japanese/admin_manual/index.html

【関係協力機関】

(独) 国立情報学研究所 社会共有知研究センター

研究協力委員一覧 (敬称略)

和光市教育委員会	副主幹兼指導主事	隅田 浩文
和光市立第五小学校	教諭	秋元 和美
鴻巣市立赤見台第一小学校	教諭	清水 励
吉見町立南小学校	教諭	齊藤 浩正
春日部市立上沖小学校	教諭	鷺林 潤壺
熊谷市立妻沼西中学校	教諭	関口 典夫
加須市立昭和中学校	教諭	大越 幸哉

総合教育センター 調査研究担当

埼玉県立総合教育センター	指導主事	持田 栄
埼玉県立総合教育センター	指導主事	出井 孝一
埼玉県立総合教育センター	指導主事	堀口 真史